

R7年度子どもの学びをつなぐICT活用推進事業

現状

- ・中山間地域の小規模中学校を対象にした免許外教科担任を支援する遠隔学習は、これまで12市町村で実施し、ニーズは高い。
- ・2025年大学入試共通テストで「情報」が実施され、高校への接続を踏まえると、中学校技術で実施しているプログラミング教育がより重要となる。
- ・小学校学習指導要領では、プログラミングを体験しながら、コンピューターに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動を計画的に実施することが明記されている。

課題

- ・県内の中山間地域等の小規模中学校では免許外教科担任が授業を行っている。そのような学校の子どもたちに一定レベルの教育を保障するためにも、継続して、免許外教科担任を支援する遠隔学習を実施する必要がある。
- ・小学校のプログラミング教育において、専門性が必要となるため学習内容の充実に至っていない。

中山間地域等の小規模校の個別最適な学びと協働的な学びを支援する遠隔学習

中山間地域等の小規模校を支援する日常的な遠隔学習の推進

- 中学校プログラミング教育の充実
 - ・中学技術のプログラミングの授業において、専門家が免許外教科担任のいる学校に双方向型の講義を実施
 - ・免許外教科担任でも実施できる教材を活用
 - ・ICT教育支援員による支援
- 小学校プログラミング教育の充実
 - ・高度な専門性を必要とするプログラミングの授業において、専門家が児童に双方向型の講義を実施
 - ・ICT教育支援員による支援
- 市町村教育委員会と連携した遠隔学習の実施
 - ・小規模校等において、他校と交流する遠隔学習を実施し、協働的な学びを実現
 - ・学習支援ソフトを活用し、学校間で教材等を共有



ICTの利活用による授業改善の推進

- リーディングDXスクールの授業支援
 - ・授業のねらいに即した活用
 - ・子どもの学びを広げ、深める活動で活用
 - ・指導主事による指導訪問、指導用端末の整備
- APUオンライン交流
 - ・APUの学生と交流することで、学習の成果を確かめるとともに、英語を学ぶ意欲の向上を図る



取組内容

計画

令和6年度-8年度	4月～5月	6月～1月	2月～3月
遠隔学習	・関係者打合せ	・実施日程等の連絡調整、遠隔学習の実施	・遠隔学習の成果と課題の整理
ICTによる授業改善	・各種協議や公開授業等において県指導主事による指導支援を実施		

効果

- ・児童生徒の情報活用能力の向上
- ・ICTを活用する教員の指導力向上



ICT活用により学習への興味・関心が高まり、理解が深まった児童生徒の割合
(現状値R5年度：79.2% R6年度：83% R7年度：85% R8年度：87%)